

一業を興す、任される 人材の輩出こそ、 全教職員の歓びです

多摩大学 名誉学長・学長代行
取材・文／堀水潤 撮影／渡辺まこと

野田一夫



【名誉学長プロフィール】1927年生まれ。東京大学文学部社会科学科卒業後、同大学院特別研究生、立教大学教授などを経て、多摩大学初代学長、宮城大学初代学長を歴任。財団法人日本総合研究所理事長、多摩大学名誉学長。

【大学プロフィール】1989年設立。2007年、湘南キャンパス開設とともに、グローバルスタディーズ学部(グローバルスタディーズ学科)を新設。多摩キャンパスにある経営情報学部(経営情報学科、マネジメントデザイン学科)と合わせ2学部3学科体制に。

来年度、本学には第5代学長として寺島実郎氏が着任する予定です。その間、本学設立に深くかかわり、初代学長も務めた私は、学長代行を依頼され、新学長を迎える地ならしを進めています。この地ならしの目的は、もちろん新学長が着任と同時に思う存分自らの理念を大学教育に反映しうる体制をつくりあげておくことですが、同時に、それによって、本学創設の理念が新しい時代に合った形で実現されていくことに、私は大きな期待を抱いています。

国を問わず、大学設置の目的は学問研究と高等教育にあります。しかし、わが国の大学では伝統的に、過度に研究に重点が置かれ、とかく教育は軽視されてきました。本学は、この弊を強く意識し、創設にあたり敢えて「教育第一義」を掲げ、各種の革新的制度や方式を導入することによって、世の注目を集めてきました。

当時の日本の大学は、学生の勉強意欲と教員の教育的情熱の低下が表面化した結果、「大学改革」が国民的課題となっていました。そして、大学のマンモス化と教育のマスプロ化は、それが時代の必然的産物であったとはいえ、大学教育退廃の一因として識者の間でしきりに

に論議的になっていました。

その意味では、当初1学部1学科・入学定員160人の本学が「教育第一義」を掲げ、率先して革新を実行したことは、時宜にかなった発足であったといえます。開学後20年、いまだ大学院を含め学生数1800人の小さな大学である本学は、学生と教員の社会的距離はきわめて近く、学生一人ひとりをその個性に合った社会人として育て上げられるという点で、十分に強みは発揮されています。

本学は、経営学と情報学を学際的に融合した「経営情報学部」で創設されました。07年、近年の時代的趨勢に沿って、第二学部として「グローバルスタディーズ学部」が新設されましたが、この学部も近い将来は経営情報学部との関係を漸次深め、両学部教育の相乗効果は上昇していくでしょう。

産業界をはじめ各界に卒業生を送り出すにあたり、私は、二人でも多くが二事業を興すか、あるいは既成の組織に勤める身になっても、やがては新規の部門を任せられる人材として成功していただくことを願っています。全教職員も、こうして本学の教育方針が実現することが一番の使命と感じています。